

林先生とインターネット

小野 成志

学校法人根津育英会武蔵学園 理事、CAUA 監事

日本のインターネット創生期には、多くの人々が関わっておられたが、林英輔先生は、その中でも異色の人であったと思う。表立つことは滅多に無く、裏方のしかし常に重要な役割を果たしてこられた先生であった。中でもインターネットの普及と格闘する研究者達を影から支えてこられたことは先生の一番の功績ではなかったかと思う。かつてインターネットは極めて新しい分野であることが災いし、専門分野として評価されることは無く、その研究業績が評価されることはさらに少なかった。勢い若いインターネット研究者たちの処遇も恵まれないものであった。林先生は、そうした厳しい研究環境を改善するために多くの功績を残された。1996年には、DSM研究会という、インターネットを運用する人々の集える研究会を情報処理学会の中に作っていただいた。この研究会は今や順調に発展して、IOT研究会と名を変えて多くの会員を集めている。これだけでも、創生期のインターネットの研究者達は、均しく林先生に感謝しているはずである。

林先生には、私自身も1994年頃から東京地域アカデミックネットワーク（TRAIN）でお世話になり、TRAIN解散という難しいお仕事をともにさせていただいた中で、先生のご苦勞された姿も拝見してきた。その後、私がCAUAへ参加したのも林先生が苦勞して立ち上げられたと知っていたのであった。

今回は、林先生の業績を偲び、まずインターネット創生期について、当時共に苦勞をされたCAUA会長の後藤滋樹氏に、次に山梨大学の思い出を一番古くから林先生に関わっておられた山梨県立大学の八代一浩氏に、また、TRAINでの先生のご活躍の思い出を東京大学の中山雅哉氏に、そして、DSM研究会の創設のご苦勞についてのお話は、現IOT運営委員長の山井成良氏に、CAUA時代の思い出は、CAUA副会長の斎藤馨氏にお願いした。最後にCAUA事務局の滝島繁則氏からCAUA時代の林先生の思い出の画像を紹介していただき、会は閉会となった。

当日の参加者は21名というこじんまりした会であったが、そのお顔ぶれを拝見すると、ご講演をお願いした方々ばかりでなく、本会に参加した方々は、皆林先生には一方ならぬお世話になり、今日インターネット支える重要な職責を担っておられる方々ばかりである。林先生は、残念ながら鬼籍に入られたが、先生のインターネットに対する思いは次の世代に確実に引き継がれていると改めて実感した。

林先生、ありがとうございました、そして、お世話になりました。安らかにお休み下さい。